

特集 若手・中堅職員政策提案 プロジェクトチームの活動報告

今後、AI(人工知能)やロボットが普及していくなかで、職員には身近な地域課題を解決する政策を形成していく能力が求められます。

そこで、今年度より若手・中堅職員を対象にした政策提案プロジェクトチームを結成し、実行性のある政策形成能力をつけるため、名古屋市立大学 人文社会学部の三浦 哲司准教授を講師にお招きしました。今年度は、「空き家対策」と「若者定住促進」の2つの課題について、三浦准教授に助言を頂きながら課題解決につながる事業提案に取り組みました。



講師：名古屋市立大学 三浦哲司准教授

空き家対策

起業家にターゲットを絞り、空き家を事業所として活用してもらうよう促す



提案された事業は、最終的に市長と市幹部職員へプレゼンテーションし、来年度に策定予定の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる事業として検討していきます。活動内容や具体的に提案された事業については、市ホームページをご覧ください。

若者定住促進

子育て支援の取り組みについて情報発信の強化を図る



▲市長、市幹部職員への最終報告

保 育所防災訓練に民生・児童委員が 参加しました



子どもたちと一緒に避難する 民生・児童委員

保育士のお手伝いをしながら保育所児と一緒に避難をした際に、乳幼児をおんぶする紐が足りていないことが分かり、民生・児童委員協議会より「さらし」を寄贈しました。



乳幼児を「さらし」でおんぶをする 保育士

こ れからの公共施設を考える

1月12日、十四山スポーツセンターにて、公共施設市民フォーラムが開催され、市民ら約100人が熱心に耳を傾けました。

最初に名古屋大学大学院の恒川和久准教授より「公共施設をとりまく現状について」という題目で基調講演をしていただき、市職員からは、公共施設再配置計画について概要説明がありました。その後、恒川准教授と4人のパネリストによる「みんなで考える公共施設の再配置」をテーマにパネルディスカッションがあり、熱のこもった意見が交わされました。



意見交換をするパネリストの皆さん

ちょっと一息 “防災”

防災クイズに挑戦してみませんか？

問題

自宅で過ごしているときに、地震が発生しました。一番先にすることは何ですか？

① テレビをつけて、地震情報を確認する。

② 安全な場所で自分の身を守る。

③ 携帯電話をさがす。

答えはP10の下をご覧ください。

やとみ 歴史探訪

このコーナーでは、弥富市のまだまだ知られざる歴史について、弥富ふるさとガイドボランティアが紹介していきます。

興善寺地蔵

興善寺は延暦14(795)年、桓武天皇の勅願により創建されたと伝わる寺で、現在の弥富インター付近にありました。文明年間(15世紀)に天台宗から浄土真宗に改宗し、最盛期は70余りの末寺を持つ大寺でした。興善寺は織田信長との戦いで焼失し再興されましたが、清州へ移転しました。その後、尾張藩の中樞部が名古屋に移る「清州越」の際に名古屋へ移転したため、現在は名古屋市中区新栄にあります。

明治24(1891)年の濃尾地震の後、寺の跡地の白頭池から2体の地蔵が見つかり、興善寺地蔵として荷之上の墓地に安置されています。弥富で一番古い石仏と伝えられていて、市の文化財に指定されています。毎年3月には信長との戦いで亡くなった人々の供養祭が行われています。



▲興善寺地蔵



市ホームページ内フォトギャラリーや公式ツイッターでもまちの話題を紹介しています!



▲ひな人形 (十四山保育所)